

正誤表

一部記述に誤りがありました。以下のとおり訂正いたしますとともに、深くお詫び申し上げます。

【34 ページ (ジョロウグモの科名)】

誤 アシナガグモ科 → 正 ジョロウグモ科

【68 ページ (コガネムシの写真)】

ヒメコガネの写真を誤掲載 → 正 コガネムシはヒメコガネより前胸背板が短い(※下記2ページ目に修正写真)

【71 ページ (ヒラタクワガタの写真)】

コクワガタの写真を誤掲載 → 正 ヒラタクワガタはコクワガタより大あごの内歯が多い(※下記3ページ目に修正写真)

【76 ページ (ヒグラシの写真)】

ミンミンゼミの写真を誤掲載 → 正 ヒグラシはミンミンゼミより腹が長い(※下記4ページ目に修正写真)

【93 ページ (タイワンリスの写真)】

ニホンリスの写真を誤掲載 → 正 タイワンリスはニホンリスより耳が短く耳先に房毛はない

【105 ページ (イロハモミジの科名)】

誤 カエデ科 → 正 ムクロジ科

【120 ページ (ルリボシカミキリのまめ知識)】

誤 死後は変色する → 正 死後は色あせる(青は残るものの色あせてしまう)

【120 ページ (ヒゲナガカミキリの写真)】

ヒメヒゲナガカミキリの写真を誤掲載 → 正 ヒゲナガカミキリは背の白い斑点がない(※下記5ページ目に修正写真)

【135 ページ (コノハズクの英名)】

誤 Scops → 正 Scops Owl

【143 ページ (ホンドギツネの科名)】

誤 キツネ科 → 正 イヌ科

【175 ページ (ニホンザリガニのまめ知識)】

誤 国の天然記念物に指定 → 正 生息地が国の天然記念物に指定

【175 ページ (ニホンザリガニ、アメリカザリガニの科名)】

誤 ザリガニ科 → 正 アメリカザリガニ科

【214 ページ (ショウジンガニの科名)】

誤 イワガニ科 → 正 ショウジンガニ科

【220 ページ (マヒトデの科名)】

誤 ヒトデ科 → 正 マヒトデ科

【241 ページ (ミサゴの科名)】

誤 サゴ科 → 正 ミサゴ科

コガネムシ科

カナブン

●金蚕 ●Japanese Drone Beetle

頭が四角い

DATA

●体長 2.2~3cm

●分布 本州~九州 ●時期 6~8月

コガネムシ科

コガネムシ

●黄金虫 ●Chafer

美しく輝く体

DATA

●体長 1.7~2.4cm

●分布 全国 ●時期 6~7月

後翅だけで飛ぶのが特徴

本州以南の低地の雑木林などに主に生息し、公園や街路樹でも見られる。クヌギやコナラ、ヤナギなどに集まって樹液を吸う。四角い頭が特徴的。体は銅色のものから緑色のものまで個体差があり、独特な輝きを持つ。飛行能力に優れ速く飛ぶのも減速も得意。前翅は開かず後翅だけを広げて飛ぶ。

まめ知識

アオカナブンとの違い

緑色の個体をアオカナブンと間違えやすいが、本種の方が頭は短く、体も短くて幅広い。

美しい輝きを放つ卵形の体

低地の雑木林の周辺などで見かけられ、サクラやクヌギなど葉樹の葉を好んで食べる。卵形の体をしており、体色は緑色から赤紫色がかかった緑色などの他、赤紫色、紫黒色など個体差があり、美しい輝きを持つ。幼虫が地中で植物の根を食べてしまい、野菜類など作物に被害を及ぼすことで知られる。

まめ知識

糞を食べる種も

コガネムシ科の仲間には世界に2万余種あり、ほ乳類の糞を主食にするものもある。

生息場所によって特徴が異なる

関東以南で見かけられ、体がやや平たいのが特徴。オスの大アゴの形は本州産、沖縄産、西表島産など生息する場所で異なる。体色は他のクワガタムシの仲間と同様、黒褐色から暗褐色で光沢がある。オスはクワガタムシの中では気性が荒く、大アゴではさむ力も強いので、指をはさまれないよう注意が必要。

まめ知識

小さいと光沢が増す

メスはオスよりも光沢がある。オスも小さいサイズになるにつれて体の光沢が増す傾向がある。

大アゴの内歯は1対のみ

里山では普通に生息しており、市街地の街路樹や公園などでも見られる。名前のとおり小型のクワガタムシ。オスの大アゴはヒラタクワガタに比べて細長く、まっすぐに伸びて内歯が1対しかないのが特徴。小さな個体では内歯がない場合も。幼虫は朽ち木の中で育ち、卵から成虫になるまでは2年かかる。

まめ知識

小さいの工夫

体が小さいので樹皮の隙間に身をひそめることができ、そこで樹液を吸うことがある。

クワガタムシ科

ヒラタクワガタ

●平鋏形 ●Dorcus titanus



DATA

●体長 2.3~8.1cm(オス) 2.1~4.4cm(メス)

●分布 本州以南 ●時期 5~9月

クワガタムシ科

コクワガタ

●小鋏形 ●Dorcus rectus



DATA

●体長 2.2~5.3cm(オス) 2.2~3cm(メス)

●分布 全国 ●時期 5~9月

セミ科

ヒグラシ

● 蝸 ● Evening Cicada



DATA

● 体長 2.9~3.8cm(オス) 2.1~2.5cm(メス)

● 分布 全国 ● 時期 6~9月

セミ科

ニイニゼミ

● 蟪蛄 ● *Platypleura kaempferi*



DATA

● 体長 2~2.4cm

● 分布 全国 ● 時期 6~9月

特徴的な鳴き声を出す

平地から低山地のうす暗い樹林などに主に生息する。明け方と夕方に「カナカナ」と鳴くことから、カナカナゼミと呼ばれることもある。

体は緑色に黒色や赤褐色の斑紋があることが多いが、黒色が少ないものや濃いものなど個体差がある。翅は透明でわずかに緑色を帯びる。

まめ知識

日暮れ以外でも鳴く

日暮れ時に鳴くことから、この名前に。曇っている日なら昼間でも鳴き声が聞こえることがある。

早い時期から鳴き始めるセミ

平地の森林や市街地の緑地などで見られる。サクラなどの枝で好み、他のセミよりも早い時期から「チー——」と連続して鳴く声が聞こえる。体は短く太くてやや扁平、緑褐色に黒斑がある。翅には斑模様が入る。幼虫期間は約3年。抜け殻は小さく、泥がついているので他のセミと区別しやすい。

まめ知識

抜け殻は木の根元

羽化する幼虫は、木の幹の低い位置にとまるので、木の根元あたりで抜け殻を見つけやすい。

ルリボシカミキリ

● 瑠璃星天牛 ● Blue Longhorn Beetle with Black Spots



DATA

● 体長 1.8~2.9cm

● 分布 全国 ● 時期 6~9月

ヒゲナガカミキリ

● 髭長天牛 ● Pine sawyer beetle



DATA

● 体長 2.6~4.5cm

● 分布 全国 ● 時期 7~8月

美しい瑠璃色の体が特徴

平地から山地の林や雑木林で、ブナやカエデ、クルミなどの倒木や花に集まる。体はやや扁平で、名前のとおり美しい瑠璃色に大きな黒斑が星のように三対並ぶ。触角は細く青色で、黒く見える部分には細かい毛が密生している。卵はブナ類の樹皮のすき間に産みつけられる。幼虫はブナ類の幹の内部を食べる。

まめ知識

死後は色あせる

独特な美しさを持つが、この鮮やかさは生きている時だけ。死ぬと青は残るが、色はあせてしまう。

体長の倍以上に触角が長い

夜行性で、山地の林にあるモミやカラマツなどの倒木や枯れ木に集まっているのが見られる。日本に生息するカミキリムシの仲間の中でオスは触角が最も長く、体長の2倍以上の長さがある。メスの触角は体長の1.2~1.4倍程度と他のカミキリムシとほぼ同じ。体は黒く灰白色の微毛で覆われている。

まめ知識

仲間が何種類かいる

ヒゲナガカミキリには仲間が何種類かいる。体が小さいヒメヒゲナガカミキリもそのひとつ。